

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2024年10月発行

第153号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726



慶蔵院の涅槃像

画 山寄淑子

## 四季折々に訪ねてみたい、お寺と出会ったバス旅行

九月四日、第七回バス旅行には三十名が参加、おかげさまで心配された暑さも感じず、現地はさわやかな風に包まれ、「奈良で阿彌陀如来に出会う」またとない旅となりました。ご尽力いただいた皆さんほんとうにありがとうございました。

武士の時代へと揺れ動く混乱の時代に、権力の座からひきずりおろされることを怖れる貴族たちは、末法の時代に入ったことを肌で感じつつ、こそって阿彌陀如来の極樂に救いを求めました。

訪れた円成寺、浄瑠璃寺、吉田寺、それぞれに境内に池を配置し、極樂の世界を表現する造りとなりました。吉田寺では、生きものを放つことで、この世での功德を積み極樂往生を願う「放生会」法要が前日に行われていたことも知りました。

円成寺のふくよかな阿彌陀如来坐像の前にある四本の柱には、二十五菩薩が描かれ、極樂からのお迎え、「来迎」の姿が表現されていました。未来往生を願う貴族たちの切実な信仰心が現れています。

浄瑠璃寺は、池を挟んで西に建てられた本堂に、九体の阿彌陀如来坐像が横一列に並び、九つに分かれている極樂の、どこかには救い取ってもらいたい…という貴族たちの強い願いが込められています。

この時代の仏教信仰は、財力を持って寺を建立し、阿彌陀如来を造立することができた少数の人たちだけの信仰に限られたものでした。当時の仏教信仰は、庶民とは無縁の信仰にすぎませんでした。こうした貴族のためだけの仏教が、庶民に平等に開かれた救いの仏教となるには、法然上人の専修念仏の登場まで、まだしばらく時間がかかったのです。

その中であって吉田寺の阿彌陀仏は、比叡山の恵心僧都源信が母親の供養のために境内にあった栗の木で彫ったと言われる丈六の如来坐像でした。法然上人は、恵心僧都の著した「往生要集」を通じて善導大師の称名念仏に心開かれることになりました。吉田寺では、常に念仏が称えられ、民衆の信仰を集める「ボックリ寺」として現在に至ります。

# 10月の行事予定



2日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
9日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～
14日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費 2000円と花代
16日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費 500円
23日(水)	地藏講・地藏堂御開帳	午後1時半～
10日(木)	英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 参加費1回 1000円
12日・26日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
11日・25日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～こども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費大人 500円 一会館にて
27日(日)	下小俣念仏行脚・ 第16回大念仏	午前9時～念仏行脚 慶蔵院境内集合 午後1時～大念仏 慶蔵院本堂にて

## 慶蔵院豆知識 ㊦

17

### 破地獄偈について

若人欲了知 三世一切仏

心観法界性 一切唯心造

もし人が、過去と現在と未来にわたるすべての仏について明らかに知りたいたくするならば、仏の世界の本質をよく観察せよ。すなわちすべてのものが、心によって造り出されたものであると。この偈に出あったきっかけは、落語会皆出席の御礼に東風さんからいただいた色紙でした。この偈は釈尊が菩提樹の下で悟りを開いた内容をそのまま近い弟子たちに説いたとされる華嚴経の中に出て来るものです。ここで心とは何かですが、広辞苑には「人間の精神作用のものになるもの」とあります。「心によつて造り出す」ということは、脳のことではないかと考えました。例えば、見るということとは、目の中にひかり(電磁氣的エネルギーの波)が入ってきて網膜に届き、視細胞で電気信号に変換され、視神経を通過して脳のある部分に送られ、イメージとして物の形が作られるのです。音は空気の振動が耳に入ってきて、鼓膜を振動させ、内耳に伝えられ蝸牛で電気信号に変換され、内耳神経を通過して脳に送られ、音として認識されるのです。外の感覚も同じ様にして脳に伝えられ、それぞれ認識されます。すなわちすべてのものが脳の中で、イメージとして作り出されるということなのです。個人差というものがあるので、私の見ているものとあなたが見ているものとは違うかも知れませんが、それを統合するものが「心」ということなのか…。

(文 麻畑公生)

# 第十六回大念仏

十月二十七日(日)

午前九時〜

下小俣念仏行脚

午後一時〜四時半(慶蔵院本堂にて)

大念仏

導師 東京 観智院 土屋正道上人



## 念仏行脚道順

沿道にて慶蔵院のイチョウの銀杏をお配りします。

- |        |       |   |       |
|--------|-------|---|-------|
| 9時     | 慶蔵院出発 | ①慶蔵院駐車場の山の神   | 9時5分  |
|        |       | ②チカネバ地蔵   | 9時15分 |
|        |       | ③松家さん前の山の神  | 9時25分 |
|        |       | ④鈴木重善さんの碑   | 9時35分 |
|        |       | ⑤庚申さん・山の神   | 9時50分 |
|        |       | ⑥公民館・流行社碑   | 9時55分 |
| 10時    | 公民館出発 | —北爪家—西山桂家—倉野節子家—<br>中村定一家—宮本晴司家—中村憲一家—辻井廣美家—<br>中西敏喜家—宮本勉家—中村一彦家—補永家—宮西家—<br>中森家— |       |
| 10時30分 |       | 慶蔵院到着予定   |       |



## 住職の健康回復への道のり(32)

徐々に減らしてきた高血圧の薬、アムロジピンの服用を止めて一か月半が経過しました。10ミリの利尿剤は、まだつかっています。仕事が過密になったりした場合には上が150台、下が90台になることもありま。時間の許す限り、血圧を測り、何をしたら、ときに、血圧がどうなったかについて記録を残しています。

もちろん西洋医学畑の長男先生に記録を見てもらいながら、心臓の水のたまり具合や足のむくみの状態を総合的に診てもらい「もう少し、このままで様子を見ていきましょう」と薬を止め続けています。私もそれを望んでいます。血圧が高いと思ったら、少し横になり、呼吸を整える。すぐに140台に下がるのです。ならば薬で下げなくてもよいと思うからです。自分の身体との対話です。高血圧を薬で基準値まで下げた方が死亡率があがったというデータもあるそうですから…。

落語会「いちご亭」  
午後七時〜  
慶蔵院「一会館」にて  
十月九日(水)

出演 法話 慶蔵院住職  
落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風



## 麻畑公生の「浄土宗新聞」 見どころ・読みどころ



P.1「鐸声」

中国の竹林寺のことが書いてあります。

宗教は麻薬だと言っている中国共産党が領導する国にあって、お寺は今どのような状況にあるのでしょうか。

空海が留学した西安の青龍寺、天台知顛の長沙の果願寺、その外高僧伝にでて来るお寺等、「上に方策あれば下に対策あり」で、うまくやっているのでしょうか。

[ナムシーチンピン]

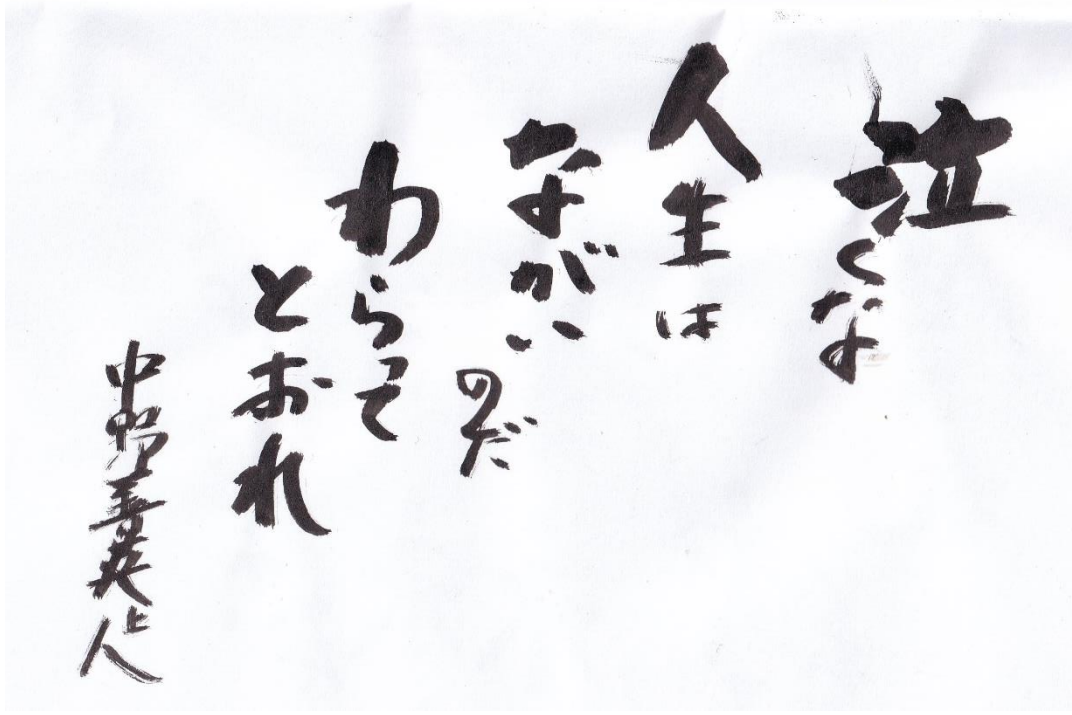
## 慶蔵院バス旅行に参加して

初参加のお寺巡り旅です。出発するバスの中、慶蔵院の皆さんの元気オーラに包まれ、ほらもう楽しいです。円成寺での若き運慶作の大日如来像のあまりの美しさに暫く動けず、浄瑠璃寺では九体の阿弥陀如来に合掌、柔らかく優しく心の内のこんな近くに仏様を実感したのは初めてです。吉田寺のお念仏、到着までのバスの中で手に汗握るお念仏、役員の方々の色々な心くばり、本当に素晴らしいバス旅でした。ありがとうございます。

(文 若原容子)



一味誌再々刊 第55号



どんな時に泣きたくなるか…。第一は、思い通りのいかない時だ。相手があればなおさらのこと。思うようにいくことの方が少ない。悔しくて泣きそうになる…。そして、大声で叫ぶ。「バカタシ、どアホ」と。しかし。そう叫んでも、どうにもならないこともわかっていいるから、怒りながら泣けてくる。小さいときから、何も変わっていないような気がする。

机に足をぶつけて「バカタシ」、ガチャンと何かを落として「あほー」と叫んでいると「お父さんは自分でやっというて怒っている…。僕はちよつとくらい大きな声で怒鳴られても驚かなくなつた。免疫ができていいるから…」と息子。

簡単に笑って通れるものではない。こんな時、念仏をする。一時間称えるとやっと元に戻ってくる。しかし笑ってなんか、なかなか居られないのが今の、至らない自分の姿である。

27日、午前9時〜下小俣内を念仏行脚する。さらに28日には、大本山清浄華院の念仏行脚一行が、慶蔵院を午前9時に出発して松阪の樹敬寺まで歩き、翌日は鈴鹿から四日市まで歩く。なぜ念仏行脚をするのか…。なぜ念仏をするのか…。念仏を称えるのは「自分が救われるため」である。自分だけが救われることを願うのではない。すべての人が救われる時、自分にも本当の救いが現れる。念仏自体が仏の心であるからだ。

阿弥陀仏は、すべての人を救う力をつけるために修行を続けた。念仏を称える者が救われなかったならば仏にはならないと修行を続けた。念仏はその阿弥陀仏が選んだ誰しもに可能な行。念仏を称える者は必ず救われるということは阿弥陀仏の誓いに基づくもの。だから念仏を称える者は自分が救われる。さらにすべての人が救われることを願ったもの…。念仏は止まっていはいけない。念仏は、前に進まなければならぬ。念仏は自ずから念仏行脚となる。笑って通れる日まで人生を念仏行脚していききたいものだ。